

「自分にチャレンジ みんなでジャンプ」

府中町立府中北小学校 対象学年（５年）

体験活動の種類 自然 文化 交流

体験活動場所 福山少年自然の家

【学校紹介】

○ 本校は府中町の北西部に位置し、^{ごきそうざん}真娑々宇山を中心とした山々の裾野に開けた場所にある。校区には、みくまり峡があるなど、広島市に隣接したベッドタウンとして開けた府中町の中でも、豊かな自然が残っている。石井城址や古墳、古い寺なども点在しており、昔の文化や歴史を今に伝えるものが多くある。児童は、協力的な地域や保護者の方々に見守られ、明るく伸び伸びと育っているが、人間関係を築くコミュニケーション能力に未熟な面が見られ、表現力や思考力の育成が課題となっている。そのため本校では、算数科を中心に、自分の考えを相手にわかりやすく表現する力や論理的思考力を身に付けるための支援について研究を進めている。

○校長名：吉岡くるみ

○児童数（学級数）：269名（11学級 特別支援学級を含む）

○所在地：広島県安芸郡府中町清水ヶ丘23-1

○電話番号：082-285-1011

○URL：fuchukita-e@hiroshima-c.ed.jp

【体験活動のねらい】

- 自然体験や食文化体験を通して、自分のふるさとも見つめ直し、郷土を愛する心を育む。
- 集団生活を通して、主体性・自律心・他者への思いやりの心を育む。
- 様々な人とのふれあいを通して、感謝の心を育み、コミュニケーション能力を高める。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
4月 ～ 7月	□米作り(田おこし・田植え)	6	総合的な学習の時間	学校	担任
6月 ～ 7月	事前学習 ・オリエンテーション ・活動内容を知る ・主題名「規律のある行動」 1-(3) ・主題名「社会への奉仕」 4-(4) ・体験先、活動について調べる ・宿泊体験準備 (係・スタンプ・キャンプファイヤー)	4 1 1 2 3	学級活動 道徳 道徳 総合的な学習の時間 総合的な学習の時間	学校	担任

8月	宿泊体験活動（3泊4日） ・ウォークラリー ・星空観測・野外炊飯 ・魚市場・エピコ工場見学 ・キャンプファイヤー	24	特別活動 (学校行事)	福山少年 自然の家	教職員 施設職員 外部講師 見学先職員
9月	事後学習 「体験をまとめよう」 ・作文(自分を見つめる) ・お礼状 「体験を伝えよう」 ・発表会計画 新聞作成	3 10	国語 総合的な学習の時間	学校	担任
10月 ～ 11月	「成果発表会」 ・主題名「郷土を見直す」 4-(7) □米作り(稲刈り・脱穀・もみすり)	2 1 6	総合的な学習の時間 道徳 総合的な学習の時間	学校	担任
12月	・主題名「日本を愛する心」 4-(7) 「体験から新たな課題づくり」 □米作り(米を食べよう)	1 2 3	道徳 総合的な学習の時間 〃	学校	担任
1月	「府中町の伝承料理を調べ、 作ってみよう」 ※ゲストティチャー招聘	8	総合的な学習の時間	学校	担任 府中町 食文化 サークル

【体験活動の概要】

○同様の活動を2回設定する

長期宿泊体験という時間的なゆとりを生かし、「ウォークラリー」と「野外炊飯」については、同様の活動を期間中、2回ずつ実施した。

1回目の体験で学んだことを生かせる場（2回目の体験）を設定することで、成功体験につなげ、学びを深めようと考えたからである。

(1)「福山少年自然の家でのウォークラリー」(1回目)

1日目に実施。班ごとに、チェックポイントのクイズを解きながら施設周りの山林に設定されたコースを回る。

地図をしっかりと見ないで歩き回り、道に迷ってしまう班や、クイズが解けずに悪戦苦闘した班もあったが、全班なんとかゴールすることができた。



ウォークラリー（1回目）

(2)「鞆の浦ウォークラリー」(2回目) ※交流体験

3日目に実施。7つのチェックポイントに設けられた問題を解きながら、鞆の浦の町を子どもたちだけで回る。

チェックポイントの問題には、地域にある店を探し出し、指定された商品を集めてくるなど、鞆の浦にちなんだ問題を設定した。見知らぬ町で上手にお店を探すなど、地域の情報を得るには、人に訊ねることがどうしても必要になる。そこでは「あいさつ」で始まり、「目的の説明」や「質問」、最後は「お礼のことば」で終わるなどのコミュニケーションが欠かせない。

自分たちの問いに優しく答えてくれたり、声をかけてくれたりする鞆の浦の人たちの優しさに触れることができ、子どもたちは、自然体で地



ウォークラリー（2回目）

域の人たちと交流できた。

また、チェックポイントの一つには、ポストを見つけ、前夜に書いた家の人への手紙を投函することを問題にした。子どもたちは、大事そうに手紙をポストに入れていた。2回目のウォークラリーということもあり、見知らぬ所を自分たちだけで散策することへの不安感も少なく、班の中で協力し合う姿がよく見られた。この活動を一番の思い出とする児童が多かった。

○奉仕活動（施設清掃）

「お世話になる施設に役立つことはできないか」を児童が考え、施設の清掃を行うことになった。施設利用時に行く、通常の清掃場所以外に、普段行き届かない場所の清掃ということで、児童は意欲的に活動した。家庭科の時間に自分が作成した雑巾を各々が持参した。雑巾は、施設で使って欲しいとプレゼントして帰った。



奉仕活動（施設清掃）

【体験活動の効果を高める事後学習】

○作文を「書く」「読み合う」「交流する」（国語）

体験作文を書く。印象に残った出来事やそのときの感想は活動中にメモさせておいた。書いた作文は、互いに読み合う時間を作った。同じ体験活動を通して、相手は何を感じたのかを、互いに聞き合うことがで、体験活動の意味づけや相互理解を深めることができた。

鞆の浦に着くと、こんな広い町な
のにゴールできるかなと不安でいっ
ばいでした。コマ図をもらうと福山
少年自然の家のウォークラリーより
コマが多くて大変そうだと思いまし
た。・・・とちゅうで道がわから
なくなり、意見がわかれてしまいま
した。けんかをしてしまいました、
どんだん進むにつれて仲良くなっ
ていきました。仲良く歩いていると鞆の
浦の人に
「暑いのにだじょうぶ。」
「がんばっているね。」
などたくさん声をかけてもらい、鞆
の浦の人はやさしいなあと思いまし
た。・・・
(児童作文より)

【交流先や施設等との連携】

○事前

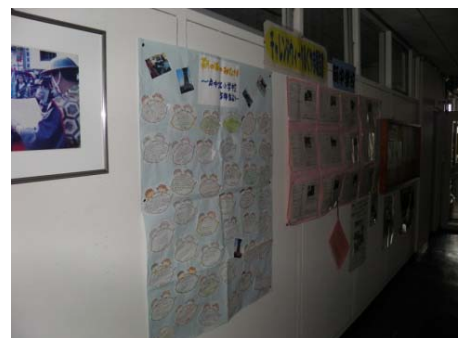
3回の打ち合わせを行う。1回目は、宿泊体験学習でのねらいにせまるために、どのような活動を組むことができるか相談。2回目は、具体的な施設利用について打ち合わせを行う。他の利用団体とも打ち合わせを持つ。(活動内容の決定) 3回目は、引率者で2つのウォークラリーを実際に行い、児童の視点から、配慮事項等を確認した。鞆の浦ウォークラリーでは、どこにチェックポイントを作るか、どんな問題にするかなど検討しながら歩いてみた。その後、施設の専門員の助言を受けながら、問題を決める。施設任せにせず、教師自身が主体的にかかわることで、教師もわくわく感が持て、子どもたちに自信を持って活動をさせることができた。

○活動中

施設の専門員と常に連絡を取り合い、改善点や配慮事項について、相談しながら活動を進める。

○事後

体験活動を振り返った子どもたちから、自分たちを温かく迎えてくれた鞆の浦の人たちへ感謝の気持ちを伝えたいとの声があがったため、子どもたちの思いをどうしたら実現できるか施設の専門員に相談する。その後、専門員からの助言と協力により、福山市役所鞆の浦支所へ児童が作成した壁新聞を掲示させていただいたり、縮小コピーした新聞を各集会所へ配布したりすることができた。



掲示された壁新聞

【評価の工夫】

○ねらいにそった自己評価を行う

1日の活動を振り返る時間を持つ。体験活動の3つのねらいに合わせた振り返りシートを作成し、毎日、自己評価を行わせた。反省したことは、次の日の活動につながっていくようにした。

○2回ずつ実施した活動では、振り返りの視点を明確にし、それぞれの活動で振り返りをする

2回ずつ行った活動（ウォークラリー・野外炊飯）では、1回目の活動後に振り返りを行い、2回目の活動に生かすようにした。さらに、2回目の活動後には、1回目の活動が生かされたかを振り返らせた。失敗した経験を生かし、目標や留意点を明確にすることができた。

8月25日（水）				8月27日（金）			
「ウォークラリー」を振り返って				「鞆の浦ウォークラリー」を振り返って			
グループの人たちのことを考えてウォークラリーができましたか。				グループの人たちのことを考えて、できましたか。			
よくできた	まあまあできた	あまりできていない	全くできていない	よくできた	まあまあできた	あまりできていない	全くできていない
	○			○			
どんなところで、そう思ったのでしょうか？				どんなところで、そう思ったのでしょうか？			
みんなで協力して問題や道もクリアできたのは良かったけど、ききさき行く人や後から来る人などに気を配れなかったこと、まあまあできた。				みんなまとまって行動できた。まよいながらも協力をしたこと。			
次の「鞆の浦ウォークラリー」で、生かしたいことは？				初めの「ウォークラリー」と比べて進歩したと思うことは？			
次の鞆の浦ウォークラリーでは、先に行く人おくれに来る人が出ないようにしたいと思う。				みんなまとまって行動できたこと。 「いってえのおて」でいっしょにゴールできたこと。 めめあいがなくなった。			

振り返りカード

○相互評価をする場を持つ

互いのがんばりを認め合ったり、感謝の気持ちを伝え合ったりする相互評価の場を設定した。活動中には、意識しなかった友だちの姿や、気付いていてもその場で伝えられなかったことをワークシートに書き、伝え合う。中には、教師も気付いていないことがあり、友だちから評価してもらえたことで新たな喜びが生まれ、互いの成長を確かめ合えた。

【安全面の配慮事項】

○施設を下見するとともに、教師自身が事前に体験活動を実施した。特にウォークラリーでは、引率教員が実際に体験し、危険箇所をチェックするとともに、危険回避に必要な手立てについて熟慮した。また、活動中は、施設職員と連携し、巡回とトランシーバーや携帯電話による連絡を欠かさないようにし、児童が安全にウォークラリーをできるように配慮した。

○熱中症対策。水分や塩分の補給時期や場所、方法についての検討を密に行う。飲料水（お茶、スポーツドリンク）と塩飴を準備する。また、冷却パックを1人に1つ持たせ、暑い時には首筋に当てるように指導した。

○健康調査を事前に実施し、健康上の配慮事項を引率者で確認し合う。

【体験活動の成果と課題】

○子どもたちの振り返りや作文等からみた成果

体験を通して、子どもたちの成長を最も感じるの、感謝の心が育ったことである。人の優しさに気付いたということだけでなく、教えてもらったことや楽しく活動できたという言葉の中にも、相手への感謝の気持ちが伝わってくる。

児童作文より

一番心に残ったことは、鞆の浦ウォークラリーです。・・・わたしは、暑いのが苦手なので、しんどそうに歩いていると、友だちが「大丈夫。」と心配してくれて、「少し休もうや。」と言って、休憩を取ってくれました。また、途中で友だちが「俺、ヒヤロン（冷却パック）いらんけえ、あげる。」と言って、ヒヤロンをくれました。みんなが心配してくれているので、すごく元気が出ました。・・・駄菓子屋の前まで来ました。お婆さんがいたので、私たちが「こんにちは。」と笑顔であいさつをすると、駄菓子屋のおじさんが「暑いじゃろ。これあげるけえ、頑張りんさい。」と言って飴をくれました。私は、鞆の浦の人は優しい人ばかりなんだなあと思いました。・・・鞆の浦の人たちの優しさにもふれて、すごく楽しいウォークラリーになりました。優しくしてもらって嬉しかったし、協力もできて、大満足です。

保護者感想より

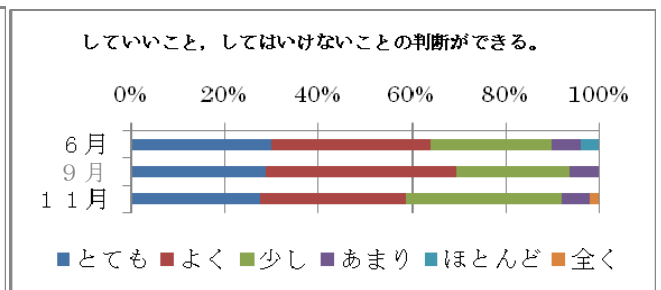
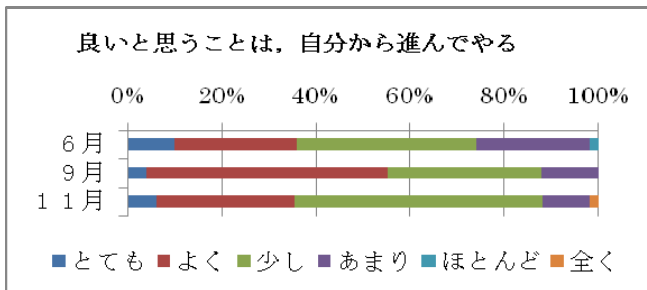
・・・行く前は、3泊4日と長期の活動のため不安で「行きたくない。」と消極的だった我が子。きっと「疲れた。」「いやだった。」と、帰ってくると思っていたら、「楽しかったよ。」「福山の人はみんな親切でいい人ばかりだったよ。」と笑顔で帰ってきました。その時々を楽しむこと、感謝すること、一番大切なことを学んだと思います。

○県指標によるアンケート結果からみた成果

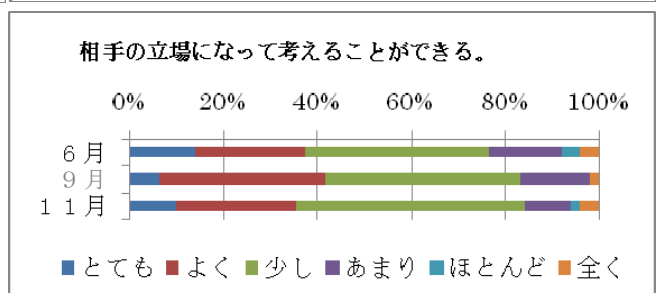
事前調査と比較してみると、児童の結果では、20項目中、「体験後」で18項目、「発表会后」では19項目で、肯定的評価が増えた。児童自身が、自分の成長を感じていることが伺える。また、保護者の結果では、18項目中、「体験後」で17項目で、「発表会后」では全項目で、肯定的評価が増えた。特に伸びが大きかった項目は「自分の力で解決しようとする」で、肯定的評価が67%から90%へと増えていた。体験活動を通して、児童が主体的に行動し始めたことが伺える。体験活動を通して子どもが成長したと感じている保護者は94%であった。多くの保護者が長期宿泊体験の効果を実感していることが分かった。

○ねらいに照らしてみた成果

本校で設定した長期宿泊体験のねらい「主体性、自律心、他者への思いやりの心の育成」について、それらと関連のあるアンケート項目の結果をみた。



どの項目でも肯定的評価が増えている。特に、体験直後の増加が大きい。事後もほとんど減少していない。とても、よくと答えた児童の割合は、事後は減少しているが、8割を超える児童が肯定的評価をしており、主体性、自律心、思いやりの心は高まったと考えられる。



●課題

「自分がくらす地域のことをもっと知りたい」というアンケート項目では、肯定的評価が「体験後」も63%と低く、本校のねらいである「郷土を愛する心を育む」ことは、体験活動を行っただけでは成果が認められなかった。

今後、発展学習として、自分たちが住む地域に目を向けさせる活動を行っていく必要がある。このように体験だけでは、達成できないものもあり、成果発表会で学習を終わらせるのではなく、評価をしっかりと行いながら、こういった活動を関連付けて学びを深化させるのか長期間を見据えた学習計画が必要である。

